

義太夫

義太夫協会会報
第61号

平成7年8月1日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2 新橋演舞場B2
TEL (3541)5471

平成七年 通常総会終了

吉川英史氏名誉顧問になる
田辺秀雄氏名誉会長に
新会長には景山正隆氏

去る七月一日、文明堂築地店にて平成七年通常総会が開かれました。当日、田辺会長は体調を崩され、生憎の欠席となりましたが、竹本朝重副会長が議長をつとめ、六年度事業報告・収支決算報告、七年度事業計画・収支予算案は全て異議なく承認されました。引き続き任期満了に伴う役員の変更が、選挙管理委員会（委員長―館野善一、委員―工藤哲子、秋山寿美子、木下真梨子の各氏）立合いのもと、厳選に行なわれました。かねてより辞意を表明されておりました田辺会長（昭和六十一年より三期九年に渡り就任）にかわり、景山正隆氏が新たに選出されました。

また、景山新会長のもと行なわれた理事会

の席上、会長より「田辺前会長を名誉会長に、吉川名誉会長を名誉顧問に御推薦したい」旨の動議があり、満場一致で承認。田辺前会長、吉川前名誉会長ともに快くご承諾されました。総会及び理事会・常任理事会を経て、新役員・各業務分担が決定、今後三年間次の顔ぶれで運営することになりました。何卒よろしくお願い申し上げます。



役職一覧(各五十音順*印新任)

名誉顧問	名誉会長	監事	理事	常務理事	副会長	会長													
吉川英史	田辺秀雄	佐々木明郎*	池田弘一*	野澤吉平	豊澤幸治	豊澤源平	鶴澤友緑*	鶴澤津賀寿*	鶴澤寛也*	竹本土佐子*	竹本土佐恵*	竹本越若孝	竹本綾太夫	竹本弥乃太夫	竹本素八	竹本越道	竹本駒之助	景山朝重	景山正隆

〔業務分担〕

研修部として一つに統合されていた、本業・竹本・舞踊の三部門は、位置付けを明確にし、より活発な活動を促進するため独立。また、事務局の強化を計るため、新たに事務局を設けた。

(太字) 部長 * 1 副部長)

本業研修部(技能向上および後進育成)

竹本駒之助 * 竹本朝重

竹本研修部

竹本綾太夫

舞踊研修部

竹本弥乃太夫 * 竹本土佐子

普及部(義太夫教室・学校巡演・教師のための義太夫講習会・一日体験教室)

竹本弥乃太夫 * 竹本土佐恵 竹本越京

竹本越若 竹本駒輝 竹本土佐子

鶴澤寛也 鶴澤駒治 鶴澤津賀寿

鶴澤弥栄 鶴澤弥吉

公演部(各種公演の企画)

竹本朝重 * 竹本駒之助 竹本綾一

竹本越孝 竹本土佐子 豊澤幸治

編集部(会報その他)

竹本越孝 * 鶴澤津賀寿

資料・記録部

竹本越若 * 竹本素丸

経理部

竹本弥乃太夫 * 竹本越若 竹本佳之助

鶴澤弥栄 鶴澤弥吉

渉外・広報部

竹本綾太夫 * 竹本越孝

備品部

野澤吉平 * 竹本綾太夫 豊澤菊二郎

事務局

野澤松也

竹本綾太夫 * 竹本素丸

〔役員〕

顧問

石井英子 本牧亭会長

河竹登志夫 早稲田大学名誉教授

郡司正勝 早稲田大学名誉教授

坂本朝一 日本放送協会名誉顧問

佐野文一郎 前日本芸術文化振興会理事

田中義男 元文化財保護審議会会長

常任相談役

河野國声

高野俊雄

相談役

榎本由喜雄 武蔵野音楽大学講師

菊池明 (財)道通協会理事長

久保庭信一 (社)日本音楽著作権協会常務理事

高橋秀雄 伝統芸能研究所所長

竹内道敬 国立音楽大学教授

館野善二 邦楽評論家
妣田圭子 草絵創始者
茂手木潔子 上越教育大学芸術系助教授
山岡知博 邦楽研究家

参 与

中島古平
中村初波奈
和田博



顧問・河竹登志夫氏は本年春の叙勲で勲三等旭日中綬章を受けられました。

会長退任に際して

田 邊 秀 雄

私は今期を以て社団法人義太夫協会の会長を退任することになりました。就任以来九年永い間会員や役員、また後援者の方々には大変お世話になりましたことを深く感謝し、また種々な点で不行届きなことの多かつたことをお詫び申し上げます。

九年前はまだ仙広さんも土佐広さんもお元気な頃で、上野の本牧亭もいつも満員で楽しい時代でした。しかしそれも束の間で時代は大きく変わっていました。仙広さんが亡くなるとそれまでの態勢が大きく変わり、更に私の任期の間に土佐広さんや多くの古い先輩を次から次へと失いました。昔の華やかな女義全盛時代の経験のある方も少なくなり、その上、本牧亭もなくなって会場も国立演芸場に変わりました。

これらは時代の変化と言わざるを得ないでしょう。その間協会の正常な運営には中々困難なこともあり、その発展を考慮しながらもやり残したことは沢山あったと思います。それらは私の親しい仲間である義太夫界のみならず邦楽一般にも通暁して居られる景山新会長に安心してお任せすることが出来て幸だと思っています。

これからの協会については新しい時代への対応が重要です。それには勿論古典の正しい継承と勉強が大切ですが、それと共に若い世代に親しませる為に、時代感覚を取入れるこ

三代目会長就任の御挨拶

社団法人義太夫協会会長 景 山 正 隆

この度、吉川英史名誉会長並びに田辺秀雄前会長の御推挙によりまして、当義太夫協会の三代目の会長をお引受けすることになりました。

私は、国文学の立場から、歌舞伎や人形浄瑠璃など近世芸能の研究に携わり、特に歌舞伎音楽を中心に邦楽に格別の関心を寄せ、研究上必要なこととして若年より故軒屋栄左衛門師に師事して長唄を稽古して参りました。その後、義太夫節についても専門的に把握する必要を痛感するようになり、丁度協会が社団法人になる直前の頃から義太夫節も稽古

とも必要です。新曲の作曲も求められます。また最近では器楽曲の流行で、常に伴奏の地位しか与えられていない太棹の器楽曲も欲しいものです。また女流であることに特色を持つことも重要で文楽とはまた違ったものも必要です。一頃は例会に活発な議論が行われ委員会まで作られました。是非復活されこれからの道を開いて行って欲しいと思います。また会員の方はよく一致協力して斯界の発展を推進して頂きたいとお願い致します。

することになり、間もなく特別会員として協会に入会させていただきました。そんな経歴からでしょうか、やがて義太夫教室の講師として協会に関わることになりました(昭和五十三年)。その後相談役となり(同五十四年)、さらに推薦会員に推されまして(同五十四年)、参りましたが(同六十二年)、まさか会長になるとは思ってもいないことでした。もとよりそのような器ではありませんし、もし現役の大学教員でしたら、とても重責を全うすることはできそうにもありませんが、平成五年三月に東洋大学を定年退職致しまして、幸い今

は自由の身となりましたことと、義太夫をこよなく愛好し、また、世界に誇るべき語り物の音楽へ義太夫節への伝承と振興の一翼を担う社団法人義太夫協会の活動を一層盛り上げてゆく上に少しでもお役に立つことができたらと、非才の身も顧みずお引受けしたような次第です。

今年、義太夫協会が社団法人の認可を受けてから満二十五年という、大きな節目の年に当たります。四半世紀といえば、三百余年の義太夫節の歴史の十二分の一であるということに思いを致せば、決して短い年数ではありません。このところ協会の正会員も、有望な若い方々が増えてきた反面、大先輩の方々が相次いで他界され、世代の交代がかなり著しい昨今です。世の中も随分変わりました。例えば、テレビやラジオといった大衆への絶大な浸透力を有するマス・メディアの、邦楽をはじめとするわが国の貴重な文化財である伝統芸能を殆ど軽視あるいは無視しているといってもよい扱い方(例えば、民放のテレビ・ラジオには邦楽の番組がありません)を見て、も知られますように、これからの義太夫界もかなり厳しい状況に直面することを覚悟しなければならぬでしょう。そうした状況を克服して、義太夫節の伝統を継承し、より盛んにしてゆくためには、正会員の皆さんが、鎬を削ってますます芸道に精進して技芸を磨かれることが何よりも大切なことですが、協会の一員としては、全員が心を合わせて協会の運営に協力し、社団法人としての社会に対す

る責任を果たすとともに、文化的に寄与してゆかなければなりません。

これまでの二十五年間、必ずしも波風が立たなかったわけではありませんが、幸い芸団協など世間の協会の運営のあり方に対する評価は高いようです。これからも力を合わせてより充実した発展を目指したいものです。私も、とにかく義太夫が好きです。吉川名誉会長、田辺前会長のご助言もいただき、皆さんのご協力を得て微力を尽くして参りたいと思っております。どうかよろしくお願い致します。

(平成七年七月七日)



浄るりシアター前にて

新理事ご挨拶



ちまたでは「超氷河期」などという言葉が飛び交っていますが、そんなことにならないように頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

竹本 土佐恵

このたび、理事の末席を汚させて頂くことになり、身の引き締まる思いでございます。未熟ではありますが、責任をもってつとめさせていただきます。どうぞよろしくご指導の程お願ひ申し上げます。

鶴澤 寛 也

若輩者が、とうとう理事になってしまいました。芸をやる者は、とかくトンチンカンなこと多いので、いろいろな方のご意見を伺いながらお役に立てればと思ひます。

鶴澤 津賀寿

ご選出して頂きありがとうございます。遠方におりますので、会議などはなかなか思うに出席出来ませんが、可能な範囲で協力させていただきます。

鶴澤 友 路

文化財保護審議会専門委員
元東洋大学文学部教授
文学博士
勲四等旭日小綬章(平成五年)

「ひこばえ」の首尾一貫をよろこぶ

池田 弘 一

寛也・駒治・津賀寿を同人とする女流義太夫三線練勉強会が、平成七年五月二十八日(日)、日本橋亭で開かれた。三時三十分の開場と共に満席となる。これは「自分達の芸の基礎を見直そう」という同人の姿勢をよしとする人が多く、その成果をじかに見、聞こうとする人が多かったことを物語るが、同時に同人が必死の思いで理解を求めた結果でもある。場内整理、室温調整と動く誠実な協力者の多いのも同人の日ごろの積善の徳ゆえだろう。

まずパンフレットが垢抜けている。当日は「ひこばえ」が配られた。曲目解説もありきりたりの孫引きではなく、作品全体の中でのその場面の意味をおさえた、演奏者自身の思い入れを語ったものである。演奏者紹介も生き生きしている。これは邦楽界のどこにもない労作であり傑作である。その「ごあいさつ」に言う、「歌詞はあえてお配りしませんので、なるべく、見て聴いて感じていただければ幸いです」と。我が意を得たりだ。そして、二十代から九十代にも及ぶ広範囲の男女が確かに見、聴いた。

当日の演奏は、駒之助の補導出演で津賀寿が「忠臣蔵・大序」を、綾一の賛助出演で寛也が「恋娘・鈴ヶ森」を、駒治は駒輝で「太功記・夕顔棚」を弾いた。それぞれに持って

いる力の出せた演奏だと思ふ。最年少の助演者駒輝はわかりにくい話の筋をはっきりわかるように語った。「腕がため組曲」には年配者にも支持の聲が高く、予想以上の反響を得た。

会が終わるとすぐに礼状が届いた。感謝と今後への思いを述べる刷り物であったが、そのあとには同人それぞれの手書きのことばが添えられていた。六月に入ると「ひこばえつうしん」が送られてきた。当日の熱気をありありと再現するものであり、三十二名のお方の感想・意見が採録されており、さらに当日入場者の男女の比率、年代別比率、女流義太夫を聞く回数などが円形グラフに整理されていた。

私は感想文を読むことによって大いに勉強させられた。それは自分とは違う考えがたくさんあるという、ごくあたりまえのことではあるが、それが労作の紙面によって実感され確認されたのである。あちこちの会でアンケートに答えさせられる。しかし、その結果を知らされることは皆無にひとしい。「ひこばえ」はある種の啓蒙の役割をも果たした。さて、初回成功のあとを受けてこれからどうするか。多くの期待・意見が寄せられている。同人は大いに悩んでほしい。ただ自らも

言う「基礎を見直そう」との姿勢だけは常に堅持すべきものだ。

繰り返し言う、準備段階から会の後の通信作業まで首尾一貫しての努力・協力はすばらしいものである。もう後もどりはできない限りのうちに第二回を、そして第三回の企画を立てよう。しかし、全力投球的努力の継続にはおのずから限度のあることも私は知っている。だから三回まではがむしゃらに進むことを望むが、第三回の済んだところであらためて考えることをすすめる。三回の実績をもって世に問うた、その時にこそ私もある提唱をせねばならぬと、今、手さぐりで考えているところである。



(駒之助・津賀寿)



(駒輝・駒治)



(綾一・寛也)

第十回豊澤仙廣賞は

豊澤源平師に

河野国声常任相談役の提唱を受けて、豊澤仙廣師（もと義太夫協会副会長・義太夫節保存会会長）の功績を記念して昭和61年に創設された「豊澤仙廣賞」、平成6年度受賞者は豊澤源平師に決定いたしました。副賞は、株式会社十全を通じて毎年河野国声氏より授与されています。

本牧亭時代から永年女流義太夫演奏会に出演している豊澤源平師は、三味線の第一人者としての技芸ばかりでなく、その人柄からも演奏会を盛りたてて下さいます。一月には、阪神大震災に見舞われるという不幸がありました。七月の女流義太夫演奏会で披露し、演奏して頂く予定でしたが、このところちょっと体調をくずされ、静養中とのことでした。おりしも、関西に行かれるという竹本駒之助副会長・鶴澤津賀寿さんに、源平師をお訪ね頂き、ご報告と副賞をお渡しして頂きました。

「鶴澤源平略歴」

- 大正3年 三世豊澤団平（祖父）に習う
- 4年 豊澤榎千代となり初舞台
- 12年 六世豊澤源吉（父）に師事
- 昭和25年 豊澤源平となる
- 47年 財団法人人形浄瑠璃因協会評議員
- 57年 尼崎市文化功労賞
- 61年 重要無形文化財総合指定保持者

平成4年 社団法人義太夫協合理事

義太夫節保存会理事

5年 勲五等瑞宝章

昭和38、45、52平成6年度人形浄瑠璃因協会賞



左記に、源平師礼状を転載いたします。

毎日うとうしい日が続いております

平素は何かと御厚情を賜わり有難うございました。此の度不肖私に仙廣賞を頂き過分なる御祝金を頂きまして誠に身に余る光栄と存じております。偏に義太夫協会様始め皆様のお蔭と喜んでおります。又駒之助様、津賀寿様にも遠方の処お越し頂きまして有難うございます。どうぞよろしく御礼御伝え下さいませ。私事本年三月より体調をくずして皆様様に大へん御迷惑をお掛け致し申し訳御座いませ。最近少し快方に向かって参りました。早く東京へ寄せて頂くのを楽しみにしております。

どうぞ皆様によりしくお伝え下さいませ。暑さに向かいますればどうぞ御身御大切に御自愛下さいませ。先は御礼まで

義太夫協会様

豊澤 源平 かしこ

竹本越孝に清栄会奨励賞

平成6年度・第8回財団法人清栄会奨励賞（三味線音楽に関する新進の伝承者および研究者を対象）の授賞者として、竹本越孝さんが選ばれました。「娘義太夫」の枠から脱却し、本格的な義太夫節の表現を追求している努力と成果が評価されたもの。5月18日、国立劇場にて授賞式が行なわれました。

西谷通晴氏（特別会員）

「義太夫の会」主催

去る三月二十五日（土）、OB演奏会でお馴染み、茅場町東京証券会館ホールにて、特別会員で、義太夫教室43期卒業の西谷通晴氏主催による「義太夫の会」が開かれました。西谷氏ご自身の八十歳傘寿記念と、竹本八重吉（祖母）、鶴澤勇造（父）、鶴澤英治（兄）各師の追善を兼ねた会であり、故人の業績そして、主催者の人柄を感じさせた会でもありました。当日の会場は満員大入りの盛況。歌舞伎の中村雁治郎師より届けられた花籠を始め、ロビーは人いきれと花の香りにあふれていました。竹本越道師・越京の三味線で壺坂を一段語った西谷氏は「思いが叶って幸せ」と、ご満悦の笑顔でした。

西谷氏より協会の発展のために、30万円のご寄付を頂戴致しました。

一日体験シリーズ 好評のうちに修了

四月早々、演舞場スペース・アルファにて「義太夫の一日体験教室」「三味線の一日体験教室」と、続けて人気のシリーズを開催、いづれも好評の内に修了いたしました。講師は昨年に続き、語り―竹本朝重、三味線―鶴澤津賀寿の両名が担当、分かり易く丁寧な教え方では定評のお二人。当日の会場内は、緊張の中にも笑みがこぼれるといった風景で、修了時間が過ぎてても仲々席を立つ人が少なく（これは立ちたくても立てなかったという真相があるようですが）それぞれ講師を囲んで暫く歓談の花が咲いていました。

「義太夫（語り）の一日体験教室
平成7年4月9日
「卅三間堂棟由来 木遣音頭の段」
講師―竹本朝重

参加者31名（男12名・女19名）
アンケート解答29名（男10名・女9名）
*義太夫を語るのは 初めて25名 経験あり1名 以前受講した1名 無回答2名
*他の邦楽の経験がある9名（謡曲・小唄長唄・能楽・琴他）なし17名 無回答3名
*年代 10代―0名 20代―9名 30代―6名 40代―6名 50代以上―6名 無回答2名

以下、設問に答えて頂きました。
一日体験に参加の動機は？

*義太夫に前から興味を持ち、自分でも唄えたら良いと思った。
*めずらしい体験希望

*昨年の夏、「柝の会」で朝重さんの語りに感動しました。
*義太夫節の素晴らしさを自分で語ることでもっとよく味わいたい。

*一度、義太夫を語ってみたかったので
*日本の文化を知りたいと思った。

*義太夫独特の力強い声の出し方を体験してみたかったので
*今日まで、趣味としてスポーツ（ゴルフ・テニス）だけでしたので、50才をすぎ一つ位は文化的なものと思い参加

*役者の勉強をしているので、日本の古典芸能にふれることも大事だと思ったので
*博物館における、普及教育事業を実施するあたり、事前調査のため

これまで義太夫に対して持っていたイメージをお聞かせ下さい。
*やや、社会的な位置づけが低い
*役者さんのようだと思っていた。
*大好き
*音符がないのでむずかしい
*語りも三味線も耳に入っていないものと思

っていました。
*人情、言葉の美しさ、自由自在、日本語の良さを表現できる

*義太夫三味線が心臓にひびく 哀調のある節が心にしみる
*ちょっと おおげさなセリフまわしがあって、自分には合わないなと思ってた。
*重たい

*いままで全く知りませんでしたので、イメージも何もありませんが、しいていえば何を語っているのかなと、思っておりました。
*これほど物語に依存しているとは思わなかった。

*よく落語や近世文芸の中で「隣の御隠居に下手な義太夫を聞かされてこまる」といった情景が描かれているので、一度始めると下手の横好きのこっつてしまうものなのかと思っていた。

*人形浄瑠璃や歌舞伎の時に聞いただけで、特に良いとも悪いとも感じてはいない。

体験して、そのイメージは変わりましたか？
*変わったとすればどんな点ですか？
*想像より息つき、その他むずかしい
*意味がわかるとおもしろい。物語のシーンが目には浮かんで来て嬉しかったです。

*長い歴史があるだけに合理性に富んでいる。
*新たためて、大変男性的と思いました。
*大変遠いものと思っていました。すごく身近になりました。

*特に変化はない。自分でやってみて、思うようにはいかないということ。
*言葉の一つ一つに意味や感情が込められて語りができていることがわかった。

感想をお聞かせ下さい。

* 今迄、舞踊発表会や歌舞伎・文楽の下座音楽として聞いていたが、今度素の語りとしてぜひ、聞きにいきたいと思います。

* 日頃、あまり声を出さないのでストレス解消になりました。良い体験でした。

* 理にかなった節付に非常に感激した。

* 足がしびれて、後半は講習どころではなく、油汗をタラタラながしながら、ひたすら時のたつのを待っていた。曲調・語りなどはおもしろいのだが、正座が：私はダメ。リタイアします。

* 得難い体験であった。おもしろく、教え方も平易でとても良い。

* 邦楽は仲々、門をたたくのに難しく、こういう気軽に親しめる場が、もっと数多くあれば良いと思います。

* エネルギーがある

「三味線の一日体験教室」
平成7年4月16日
講師―鶴澤 津賀寿

参加者合計40名(男5名 女35名)
アンケート回答37名(男5名 女32名)

* 三味線を弾くのは 初めて30名 経験あり7名(地唄三味線4名 細三味線2名)

* 三味線以外の楽器の経験がある18名
なし17名 無回答2名

* 年代 10代―0名 20代―15名 30代―8名
40代―8名 50代以上―5名 無回答―1名

以下、設問に答えて頂きました。

太棹のイメージは？

* 重々しい音。細棹より好きです。

* 波を切る風の音

* 奥の深い音だと思います。

* オシヤレ

* 深い森、暗い海、鳥の声

* 強く弾かないと鳴らないのかと思ったが、先生は軽く弾いてらっしゃった。どちらにせよ、思ったより豪快なひきあじと音の印象

* 文楽にはまっているのでやはり、ドラマチックな情を感じています。

* 存在感のある音。深い警き。

感想をお聞かせ下さい。

* 大変に面白かったと思いますが、これは相当長い間三味線を持って実際にやらなければ、とても難しいものだと感じました。

* 今日以降の義太夫の聞き方も、浄瑠璃の声だけでなく三味線の音にも感心を持って聞く事が出来るようになりました。身近にふれられ、音が出たという事、感激しました。

* ギター等と全々違うかと思っただけ、案外似ていて親しみがわいた。けれどバチをずっと持ち続けているのがつらいし、正座もつらかった。イスに座って三味線をひくのは無理なんでしょうか。

* 本当にさわるのも始めてでしたが、自分でも音が出せる心地よさを味わえたのしかったです。三味線そのものの興味がさらに出てきました。

* 集中したので時間の経つのを忘れる程でした。またぜひ参加したいと思います。

* 先日は義太夫教室、本日は三味線教室。それぞれの芸道の深さを垣間見る体験が出来て幸いだった。それぞれやはり何年も何十年も精進しなければ、とても一人前にはなれぬも、やはり「好きこそ物の上手なれ」であろうかと思う。今後、文楽その他の三味線方の見方、感じ方が一枚も二枚も深まると思う。椅子席での教室も工夫して開いてほしいものです。

* バチの大きさとコマの高さにまけてしまいます。

* ほとんど格闘しているだけでした。最初は苦痛でしたが、三重を弾く頃、楽しくなってきました。三味線があんなに重いとはいまいませんでした。

* 足のしびれさえなければ、とても素敵な楽器だと思ふ。

* ありがとうございます。

御協力下さった皆様ありがとうございました。そして本当にお疲れ様でした。少しでも義太夫に興味をお持ち頂ければ幸いです。いつかどこかの演奏会場でお目に掛かれまことを願います。

義太夫教室第48期初級アンケート

義太夫教室第48期の中上級は、9月4日に開講されます。長いようで短かった？初級入門コースは無事7月14日に修了。そのアンケートから、甘口辛口の御意見を。中上級に進もうか迷っている方、方向は一つです。

【語り実習について】

* 難しかった：一生懸命テープも聞いたのですが、一緒に語って頂いても人数が多いとなかなか聞きとれないので、細かいところを少し具体的に注意して頂けると有難かったです。

* ああ、お見事なる技かな。段々耳慣れるにしたがって注意点を増やして下さっていたかと思えます。

* とてもわかりやすく、全く知識のなかった私でもなんとかついていけるようにして下さい。後期も楽しみにしています。

* 何とか「かたりもどき」にはなったと思います。

* 講師の方は「心底、義太夫がお好きなんだな」と思い、感激致しました。

* 昔、山城少豫のレコードで楽しんでいたので懐かしかったです。

* ちょっと話された修業時代の話にじんとしてしまいました。

* ただひたすらに声を出す。けいこの基本だなあと思いました。先生が魅力的で、お会いするのがいつも楽しみでした。

【三味線実習について】

* 楽しかった。もう一回やりたかった。

* 非常に難しかったですが、みて下さる方が沢山いたのでよかったです。しかし小指が痛い。

* 生れて初めて三味線を弾きましたが、無器用な私としては難しかったです。お手伝いのお弟子さんたちが、あきれながらも面倒を見てくれて、とてもうれしかったです。

* 左の爪や右手が痛くなってこれは大変だと思った。男の方の楽器だなあと考えた。

* もちろん上手ではないのですが「正しい音」が出た時には感動しました。

* 難しいと思っていた三味線で、まがりなりにもユクリが弾けて感激です。

* 待に待った三味線：現金なもので足のしびれがそれほど気になりませんでした。でも、きれいな音はでないし、左手にもバチ先にもつい目が行ってしまおうし、見てないところでもないことになってるし、ま何か「曲」を弾くなんて気が遠くなりますが、またがんばります。

* 実技が2回位あってもいいのではないかと思えます。

【講義・運営等について】

* 教室に参加したきっかけは、実技の方をやりたいたいという気持ちからでしたが、講義の方も非常に奥深く、面白く聞かせて頂きました。奥深すぎて、1時間の中ではかけあしでお話して下さるしかなかったでしょうし、受けての私も、上の方をなぞったぐらいで終ってしまったなあと思います。これからゆっくり頂いた資料を復習したいと、思っています。

* 歴史ある講習会らしくスムーズに行なわれていたように思います。

* それぞれのお話が楽しく、勉強になり、もっと本を読むなりして「知りたい」という刺激になった。何より、先生方の義太夫に対する愛情が感じられたのがうれしかったです。

* 分かってくるともっと義太夫が楽しくなるでしょうね。

* いろいろな義太夫を知りたくなりました。いつもやさしく接して頂きましてありがとうございます。ありがとうございました。

* 2か月はあったという間だった。機会があれば他の邦楽（長唄・清元・小唄等）にチャレンジして、一生続けてみたいのです。いつか、お座敷で芸者さんと、芸を披露しながら飲むなんて、おつですわね。とても粋だと思いませんか？

* 義太夫を愛する人の集まりという感じで、とても親切で、義太夫の良さを私達に伝えたいとの心が伝わって来ました。

協会の動き

'94年1月より
'95年7月まで

〔平成六年度〕

1月9日 普及部会

於文明堂

1月12日 芸術文化振興基金平成七年度助成金交付要望書提出

1月19日 正会員・役員新春挨拶交換会

於国立第二研修室

19日 女流義太夫演奏会初春公演「竹本駒龍芸団協芸能功労者表彰受彰記念」(芸術文化振興基金助成)

於国立演芸場

1月27日 平成七年度民間芸術等振興費補助金事業計画書提出

1月30日 理事会(中止)

2月8日 演舞場稲荷初午祭

2月20日 理事会 於サロン・ド・サンク

2月22日 第14回伝承者研修発表会(義太夫節保存会主催、義太夫協会後援、文化庁・東京都助成)

二月公演は、被災者救済のためのチャリティ公演とさせて頂きました。当日、演舞場ロビーに募金箱を設置、ご来場のお客様にご協力

を呼び掛けましたところ、吉川名誉会長はじめ、多くの皆様からのご好意を頂くことが出来ました。

募金総額は、六六、七〇〇円です。

NHK厚生文化事業団を通じて、被災者のお手元にお届けいたしました。この場をお借りして、ご協力下さいました皆様に御礼を申し上げます。また、協会としまして十万円を同事業団を通じて寄付させて頂きました。

2月25日 義太夫教室OB演奏会1第47期卒業発表会(義太夫教室OB会主催、義太夫協会後援) 全19高座

於東京証券会館ホール

3月9日 第13期竹本研修修了発表会・第13期歌舞伎俳優研修生・第9期鳴物研修生発表会

於国立小劇場

第13期竹本研修を終了した、河瀬征弘さんは、豊澤勝二郎の芸名で晴れて舞台人。協会の正会員としても今後の活躍が期待されます。

3月13日 義太夫教室第47期上級コース修了式 於演舞場スペースアルファ

歴代の教室の中で、五指に数えられる程活発な47期。修了式を早々に切り上げ、「講師陣に感謝を、受講生同志には慰労を」と、場所を移して謝恩会を開催。

「たよりになるOB」として楽しみ。

3月22日 公演部会 於国立演芸場

22日 女流義太夫演奏会(芸術文化振興基金助成) 鶴澤寛也芸団協助成新人奨励賞受賞記念。開演前舞台にて表彰式を行なった。

3月25日 平成6年度東京都文化財保存事業費補助金実績報告書提出

25日 平成6年度文化財保存事業費国庫補助金実績報告書提出

3月30日 平成6年度民間芸術等振興費補助金実績報告書提出

3月9日 義太夫(語り)の一日体験教室 講師1竹本朝重(7項参照)

4月9日 於演舞場スペースアルファ

4月13日 平成6年度芸術文化振興基金助成事業(女流義太夫演奏会) 実績報告書提出

4月16日	三味線の一日体験教室 講師―鶴澤津賀寿(8項参照) 於演舞場スペースアルファ	6月15日	平成7年度文化財保存事業費国庫補助金申請書提出 芸団協総会 竹本綾太夫事務局長出席 於東京会館
4月17日	平成7年度民間芸術等振興費補助金に関する事情聴収 於文化庁	6月22日	新人正会員オーディション 於国立第二研修室
17日	平成6年度東京都文化財保存事業費補助金の額の確定通知(3/31付)	6月23日	教師のための義太夫講習会「囃語幻影綱」企画・構成・講演―池田弘一 特別出演―ひとみ座乙女文楽 於国立演舞場
4月18日	平成6年度文化財保存事業費国庫補助金の額の確定通知(3/31付)	6月23日	選挙管理委員会 於文明堂
4月20日	金の額の確定通知(3/31付) 公演部・西川古柳座・国立演舞場打合せ 於国立演舞場	7月1日	義太夫協会通常総会 平成6年度事業報告・収支決算報告、平成7年度事業計画・予算案を審議、原案通り可決した。任期満了に伴う役員改選を行なった。 於文明堂
4月23日	女流義太夫演奏会 特別出演―八王子車人形・西川古柳座 於国立演舞場	7月4日	平成6年度民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及事業)額の確定通知(4月28日付) 公演部・ひがし座・国立演舞場打合せ 於国立演舞場
4月28日	常務理事会 於文明堂	7月13日	義太夫教室第48期初級入門コース 於文明堂
5月9日	普及部会 於文明堂	7月14日	閉講。42名卒業 10名皆勤。 於演舞場スペースアルファ
5月20・21日	女流後継者育成事業「車曳き」研修(野澤喜左衛門師指導) 於国立劇場	7月14日	義太夫教室第48期初級入門コース 於文明堂
5月23日	女流義太夫演奏会「菅原伝授手習鑑特集」 於国立演舞場	7月16～18日	女流後継者育成事業「海女」及「野崎村」研修(野澤喜左衛門師指導) 於布善倶楽部
5月26日	義太夫教室第48期初級入門コース 開講 48名受講 於演舞場スペースアルファ	7月21日	平成7年度文化財保存事業費国庫補助金交付申請書提出 於国立演舞場
6月7日	定例理事会 於文明堂		
7日	平成7年度芸術文化振興基金助成金交付内定通知(5月26日付)		
6月9日	公演部・ひとみ座・国立演舞場打合せ 於国立演舞場		

7月23日 女流義太夫演奏会 特別出演―神奈川県立厚木東高等学校人形浄瑠璃部ひがし座OB会
於国立演舞場

8月1日 義太夫協会会報第61号発行
於国立演舞場

心身障害児のための特別公演
チャリティ(一九九四・二・二二)

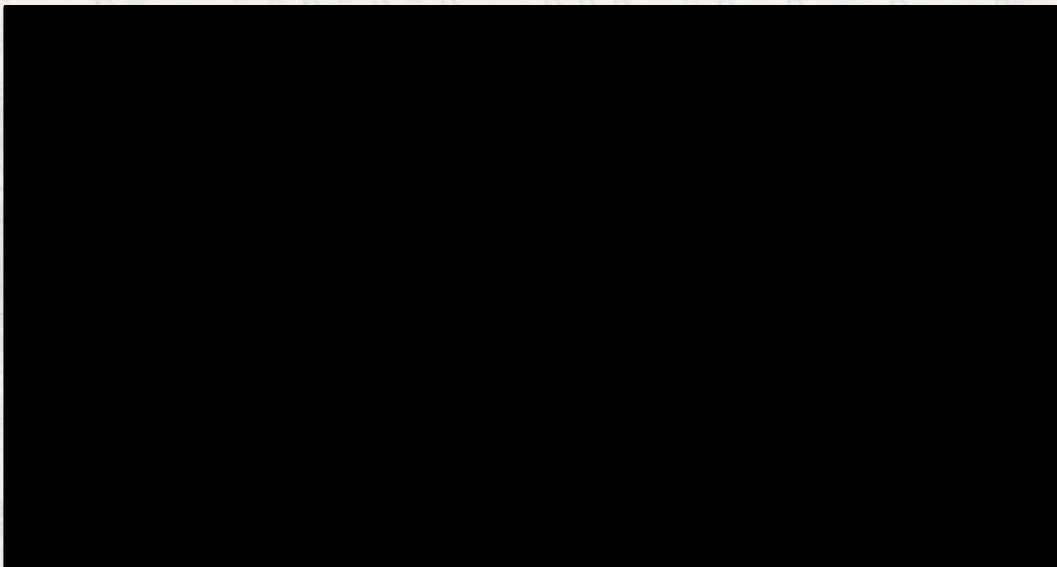
大変遅くなりましたが、左記の通り御報告申し上げます。募金は、NHK厚生文化事業団を通じて、心身障害児のために活用されており、御協力有難うございました。

「報告書」

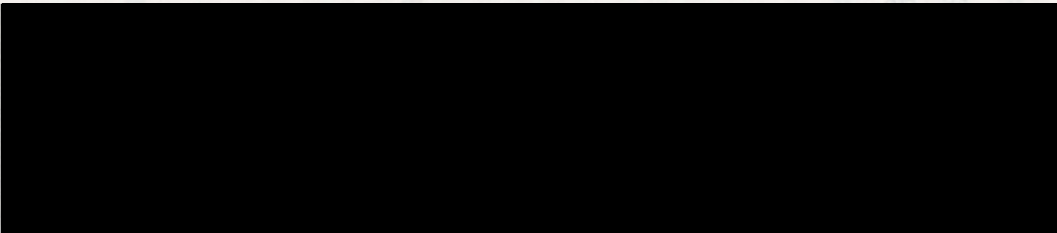
会場募金箱	八四四六〇円
協会扱御寄付	一三四〇〇〇円
「内 訳」	
竹本弥乃太夫御一門様	一〇〇〇〇〇円
竹本弥乃太夫様	一〇〇〇〇円
中島 古平様	一〇〇〇〇円
松尾 雅子様	五〇〇〇〇円
和田 博様	五〇〇〇〇円
小林とし子様	二〇〇〇〇円
竹本 越道様	二〇〇〇〇円
合計	二一八、四六〇円

*尚、今回もプログラム印刷一切は、高野俊雄氏(女流義太夫後援会)の御寄贈になるものです。

新入会員御紹介(五十音順・敬称略) []内は義太夫教室卒業期



住所(住居表示)等変更



【 寄 贈 】

竹本素八様	S Pレコード	多数	松竹株式会社様	歌舞伎座百年史・資料編
竹本連中様	アガリ糸		国立劇場業務課様	文楽鑑賞のために 50部

会員名簿整備

来年のお正月には、新しい会員名簿をお届けしたいと思います。
つきましては、住所変更・住居表示変更等ございましたら、事務局までご一報下さい。また広告掲載も可能です。
どうぞ候相談下さいますよう。

【クイズ正解発表】

前号の正解は 常磐津(蛸足見台) 端唄
長唄(X見台) 清元(箱見台)
義太夫 以上でした。

赴 報

- 島 春栄師(本名一島はる) 参与
平成6年12月24日逝去
- 享年93才
- 豊澤猿若師(本名一小西市三郎) 正会員
平成6年12月30日逝去
- 享年86才

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。
最近のプロテニス、ラリーが少なく面白みが半減、その対策としてボールの重量を増したが効果は薄いそうである。何事もラリー・応酬が無いことには意気も上がらない。どうか会報にも精気を与えて下さい。